授業科目	看護英語	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	那須 恒夫
授業の目的・テーマ	外国人患者とスムーズなコミュニケーションがとれるように、基本的な医学用語、並びに、的確な質問や指示ができるための英語表現の修得を目指す。		
授業の到達目標	外国人患者とスムーズなコミュニケーションがとれるように、基本的な医学用語、並びに、的確な質問や指示ができるための英語表現の修得する。		

授業の計画					
	1	はじめての来院者への対応	（前半）	26	事故や病状に関する表現 （後半）
	2	情報カードの作成	（後半）	27	人間ドックでの指示表現 （前半）
	3	具合を尋ねる	（前半）	28	内臓（２）、消化器系、泌尿器に関する表現
	4	体の名称と症状	（後半）	29	医療検査の種類 （後半）
	5	詳しく症状を尋ねる	（前半）	30	試験
	6	診療科目	（後半）	31	
	7	病院の案内	（前半）	32	
	8	診療科への案内の仕方	（後半）	33	
	9	身体測定に関わる表現	（前半）	34	
	10	体温、血圧、脈拍の記録	（後半）	35	
	11	問診に関わる表現	（前半）	36	
	12	主な病名	（後半）	37	
	13	病気についての質問と答え	（前半）	38	
	14	症状の頻度と期間	（後半）	39	
	15	診察や検査時の指示の表現	（前半）	40	
	16	患者をリラックスさせる	（後半）	41	
	17	予約の日付と時間	（前半）	42	
	18	薬を飲むときの指示	（後半）	43	
	19	薬の種類	（前半）	44	
	20	薬の服用についての指示	（後半）	45	
	21	手術に関する表現	（前半）	46	
	22	朝の観察の記録	（後半）	47	
	23	痛みを和らげるための表現	（前半）	48	
	24	病院にある器具	（後半）	49	
	25	内蔵（１）、脳、気管支に関する表現		50	

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	English for Nurses(Asahi Press)
評価の方法や基準	授業への積極性、課題の提出、小テストの成績、試験の成績を総合して判定する。
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	授業に英語辞書を持参すること。

授業科目	公衆衛生学	単位／時間	２／４５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	元吉 喜志男
授業の目的・テーマ	公衆衛生に関連した項目について理解する。		
授業の到達目標	公衆衛生に係る具体的項目について、理解できている。		

授業の計画					
	1	序　章　公衆衛生を学ぶにあたって ①	26	第８章　地域保健（Ｄ高齢者保健） ②
	2	〃 ②	27	〃　（Ｄ高齢者保健） ③
	3	第１章　公衆衛生のエッセンス ①	28	第８章　〃　（Ｅ精神保健） ①
	4	〃 ②	29	〃　（Ｅ精神保健） ②
	5	第２章　公衆衛生の活動対象 ①	30	第８章　〃　（Ｆ歯科保健） ①
	6	〃 ②	31	〃　（Ｆ歯科保健） ②
	7	第３章　公衆衛生のしくみ ①	32	第８章　〃　（Ｇ障害・難病保健） ①
	8	〃 ②	33	〃　（Ｇ障害・難病保健） ②
	9	第４章 集団の健康をとらえるための手法 ①	34	第９章　学校と健康 ①
	10	〃 ②	35	〃 ②
	11	〃 ②/第５章　環境と健康 ①	36	第10章　職場と健康 ①
	12	〃	37	〃 ②
	13	第５章　環境と健康 ②	38	第11章　健康危機管理・災害保健 ①
	14	〃	39	〃 ②
	15	第６章　感染症とその予防対策①	40	※　総　合　復　習 ①
	16	〃	41	〃 ②
	17	第６章　〃 ②/第７章　国際保健	42	※　総　合　復　習 ②
	18	〃	43	〃 ②
	19	第８章　地域保健（A 公衆衛生看護）	44	試　験
	20	〃	45	
	21	第８章　〃　（Ｂ母子保健） ①	46	
	22	〃　（Ｂ母子保健） ②	47	
	23	第８章　〃　（Ｃ成人保健） ①	48	
	24	〃　（Ｃ成人保健） ②	49	
	25	第８章　〃　（Ｄ高齢者保健） ①	50	

授業の方法	講　義　（Power point　参考プリントなどを使用）
テキスト/参考文献	『健康支援と社会保障制度②』　公衆衛生（医学書院）／『厚生労働白書』『高知県地域医療構想』『日本一の健康長寿県構想』『高知県歯と口の健康づくり基本構想』他
評価の方法や基準	筆記試験等による総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	高知県庁：医務課・地域保健班長、健康政策課長補佐、長寿社会政策課・医療対策課・保健福祉課の各課長、中央東福祉事務所・中央東福祉保健所の各所長、健康福祉部副部長（総括）＜15年３か月＞
実務経験の活かし方	保健・医療・福祉の各分野に携わった経験を活かし、時代背景や制度の変遷等も踏まえ、公衆衛生に係る現場の具体的な表情などとも絡めて看護職として必要な考え方に繋がる授業の展開に努めたい。
履修上の注意事項	パワーポイントを使用し、画像やイラスト、グラフ等で内容の理解を深めるとともに、章ごとにまとめた資料を配布する。（☞　授業開始前に機器の準備、配布資料は各自で整理管理し国試等に備えること）

授業科目	看護関係法規	単位／時間	１／１５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	森田 なつ子
授業の目的・テーマ	看護に関連した法規について理解できる。		
授業の到達目標	看護に係る法規を具体例と共に、理解している。		

授業の計画				
	1	第1章　法の概念	26	
	2	第2章　　A）保健師助産師看護師法	27	
	3	①目的　②定義	28	
	4	③保健師助産師看護師法の構造と附属法令	29	
	5	④免許　⑦業務	30	
	6	⑧研修　⑨義務	31	
	7	⑤試験　⑥学校・養成所	32	
	8	⑩医療過誤　⑪罰則	33	
	9	⑫沿革	34	
	10	B）看護師等の人材確保の促進に関する法律	35	
	11	①目的　②定義	36	
	12	③看護師等の人材確保の促進	37	
	13	④ナースセンターと離職届	38	
	14	まとめ	39	
	15	試験	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	健康支援と社会保障制度〔４〕看護関係法令　（医学書院）
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	テキスト、筆記用具を持参すること。

授業科目	関係法規	単位／時間	１／１５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	元吉 喜志男
授業の目的・テーマ	医療、公衆衛生等に関連した法規について理解できる。		
授業の到達目標	医療、公衆衛生等に関連した法規について、具体例と共に理解している。		

授業の計画		
	1	第１章　法の概念（Ａ法の概念／Ｂ衛生法／Ｃ厚生労働行政のしくみ）
	2	第３章　医　事　法（Ａ医療法／Ｂ医療関係資格法①）
	3	第３章　医　事　法（Ｃ保健医療福祉資格法②／Ｄ医療を支える法）
	4	第４章　保健衛生法（Ａ共通保健法／Ｂ分野別保健法①＜精神・母子・学校保健＞）
	5	第４章　保健衛生法（Ｂ分野別保健法②＜個別対策法＞／Ｃ感染症に関する法／Ｄ食品に関する法／Ｅ環境衛生法）
	6	
	7	第５章　薬　務　法
	8	第６章　社会保険法（Ａ医療・介護の費用保険）
	9	第６章　社会保険法（Ｂ年金）
	10	第７章　福　祉　法（Ａ福祉の基盤／Ｂ児童分野／Ｃ高齢分野／Ｄ障害分野／Ｅ手当）
	11	第８章　労働法と社会基盤整備（Ａ労働法／Ｂ社会基盤整備など）
	12	第９章　環　境　法（Ａ環境保全の基本法／Ｂ公害防止の法／Ｃ自然保護法）
	13	「傾向と対策」を踏まえたまとめ
	14	
	15	試　験
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	

授業の方法	講　義　（Power point）　参考プリントなどを使用）
テキスト/参考文献	『健康支援と社会保障制度④』看護関係法令　（医学書院）／『厚生労働白書』『高知県保健医療計画』『日本一の健康長寿県構想』他
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	高知県庁：医務課・地域保健班長、健康政策課長補佐、長寿社会政策課・医療対策課・保健福祉課の各課長、中央東福祉事務所・中央東福祉保健所の各所長、健康福祉部副部長（総括）＜15年３か月＞
実務経験の活かし方	保険・医療・福祉分野に携わった経験を活かし、時代背景や制度の変遷等も踏まえ、できるだけ関係法規と高知県の状況などとも繋いで身近に感じつつ理解しやすい授業の展開に努めたい
履修上の注意事項	パワーポイントを使用し、画像やイラスト、グラフ等で内容の理解を深めるとともに、章ごとにまとめた資料を配布する。（☞　授業開始前に機器の準備、配布資料は各自で整理管理し国試等に備えること）

授業科目	医療概論	単位／時間	１／１５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	吉川 清志
授業の目的・テーマ	現代医療の仕組みとその諸問題について理解できる。		
授業の到達目標	現代医療の仕組みとその諸問題を具体的に理解している。		

授業の計画		
	1	第1章　生きることと死ぬこと
	2	A）生命を尊ぶ心 B）健やかに生きる C）老いてこそ人生 D）おだやかに死ぬこと
	3	第2章　医学と医療
	4	A）温故知新-医学と歴史に学ぶ B）臨床疫学とEBM
	5	第3章　保健・医療・介護　－切れ目ないサポートの実現－
	6	A）保健・医療・介護を取り巻く社会環境 B）社会保障制度　C）公衆衛生と保護
	7	D）わが国の医療システム　E）救急医療・集中治療　F）がん治療
	8	G）周産期医療　H）放射線診断　I）チーム医療　J）リハビリテーション　K）介護
	9	第4章　医療と社会
	10	A）医の倫理　B）医療安全　C）医薬品
	11	D）最先端医療　E）医療情報
	12	第5章　医療経済学と医療政策
	13	A）経済学を用いて医療を読みとく
	14	B）転換を迫られる医療政策
	15	試験

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	健康支援と社会保障制度〔１〕　医療概論　（医学書院）
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	テキストを持参すること。

授業科目	小児看護学概論	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	前田　さち・寺村　妙
授業の目的・テーマ	１．小児看護の特徴と看護の役割について理解できる。 ２．小児と小児をとりまく環境と成長発達について理解できる。		
授業の到達目標	「授業の目的・テーマ」に記載した内容を目標に、授業を進める。		

授業の計画				
	1	小児看護の特徴と理念　（寺村）	26	〃
	2	小児と家族の諸統計	27	子どもと家族を取り巻く社会
	3	小児看護の変遷	28	学校保健　病児保育
	4	小児看護における倫理　今後の課題	29	試験
	5	子どもの成長・発達　（前田）	30	〃
	6	成長発達の進み方　成長の評価	31	
	7	乳児期	32	
	8	〃	33	
	9	〃	34	
	10	幼児期	35	
	11	〃	36	
	12	〃	37	
	13	学童期	38	
	14	思春期・青年期	39	
	15	子どもの状況に特徴づけられる看護　（寺村）	40	
	16	〃	41	
	17	家族の特徴とアセスメント　（前田）	42	
	18	子どものアセスメント	43	
	19	〃	44	
	20	〃	45	
	21	病気・障害を持つ子どもと家族の看護　（寺村）	46	
	22	〃	47	
	23	子どもにおける疾病の経過と看護	48	
	24	〃	49	
	25	〃	50	

授業の方法	講義　グループワーク　演習
テキスト/参考文献	系統看護学講座　小児看護学概論　小児臨床看護総論（医学書院）
評価の方法や基準	筆記試験　等、総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、　右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、小児看護学概論に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	「評価の方法や基準」について、よく理解しておくこと。

授業科目	小児看護援助論Ⅰ	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	山本 雅樹　他
授業の目的・テーマ	小児期におこりやすい障害や疾患について理解できる。		
授業の到達目標	「授業の目的・テーマ」に記載した内容を目標に、授業を進める。		

授業の計画				
	1	第1章　染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護	26	健診
	2	第 3章　代謝性疾患と看護	27	予防接種
	3	第 2章　新生児の看護	28	〃
	4	〃	29	試験
	5	第 4章　内分泌疾患と看護	30	〃
	6	〃	31	
	7	第 5章　免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患と看護	32	
	8	〃	33	
	9	第 6章　感染症と看護	34	
	10	〃	35	
	11	第 7章　呼吸器疾患と看護	36	
	12	第12章　耳鼻咽喉疾患と看護	37	
	13	第 8章　循環器疾患と看護	38	
	14	〃	39	
	15	第 9章　消化器疾患と看護	40	
	16	〃	41	
	17	第10章　血液・造血器疾患と看護	42	
	18	第11章　悪性新生物と看護	43	
	19	第12章　腎・泌尿器および生殖器疾患と看護	44	
	20	〃	45	
	21	第13章　神経疾患と看護	46	
	22	第14章　運動器疾患と看護	47	
	23	第18章　精神疾患と看護	48	
	24	〃	49	
	25	健診	50	

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	系統看護学講座　小児臨床看護各論（医学書院）
評価の方法や基準	筆記試験
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	テキストを持参すること。

授業科目	小児看護援助論Ⅱ	単位／時間	２／４５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	前田　さち・松田　理吏
授業の目的・テーマ	健康障害をもつ小児と家族を理解し、健康レベルに応じた援助について理解できる。		
授業の到達目標	上記「授業の目的・テーマ」の内容のレベルに達すること。		

授業の計画				
	1	症状を示す小児の看護：不機嫌・啼泣・痛み(松田)	26	〃
	2	症状を示す小児の看護：呼吸困難・テアノーゼショック（松田）	27	検査・処置を受ける小児の看護（松田）
	3	症状を示す小児の看護：意識障害・けいれん・発熱・嘔吐・下痢（松田）	28	〃
	4	症状を示す小児の看護：便秘・脱水・浮腫・出血（松田）	29	〃
	5	症状を示す小児の看護：貧血・発疹・黄疸（松田）	30	〃
	6	〃	31	〃
	7	看護各論：先天性疾患、ダウン症候群（前田）	32	〃
	8	〃	33	〃
	9	：糖尿病	34	子どもの虐待と看護
	10	〃	35	障害のある子どもと家族の看護（前田）
	11	：若年性関節リュウマチ	36	〃
	12	：気管支喘息、肺炎	37	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護（前田）
	13	〃	38	事例検討・看護過程（前田）
	14	：川崎病	39	〃
	15	：ファロー四徴症	40	〃
	16	〃	41	〃
	17	：イレウス、鎖肛	42	〃
	18	〃	43	〃
	19	：肥厚性幽門狭窄症、腸重積症	44	〃
	20	：腎疾患	45	試験
	21	〃	46	
	22	〃	47	
	23	：てんかん	48	
	24	：血液疾患	49	
	25	〃	50	

授業の方法	講義　グループワーク　演習
テキスト/参考文献	系統看護学講座　小児看護学概論　小児臨床看護総論、小児臨床看護各論（医学書院）
評価の方法や基準	筆記試験、課題 等,　総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	〇
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、小児看護援助論に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	上記「評価の方法や基準」の内容をよく理解しておくこと

授業科目	母性看護援助論（異常編）	単位／時間	１／１５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	高橋 洋平・瀬戸 さち恵 他
授業の目的・テーマ	妊娠・分娩・産褥・新生児各期に起こりやすい正常からの逸脱（異常）や、そのリスクについて理解し、予防のための看護と、異常が起こった場合の看護、保健指導の知識、技術を修得できる。		
授業の到達目標	妊娠・分娩・産褥・新生児各期に起こりやすい正常からの逸脱（異常）や、そのリスクについて理解し、予防のための看護と、異常が起こった場合の看護、保健指導の知識、技術を修得する。		

授業の計画				
	1	第7章　妊娠・分娩・新生児・産褥の異常	26	
	2	Ⅰ-妊娠の異常と看護　（瀬戸）	27	
	3	〃	28	
	4	〃	29	
	5	〃	30	
	6	Ⅱ-分娩の異常と看護　（高橋）	31	
	7	〃	32	
	8	〃	33	
	9	〃	34	
	10	Ⅲ-新生児の異常と看護　（村山）	35	
	11	〃	36	
	12	Ⅳ-産褥の異常と看護　（村山）	37	
	13	〃	38	
	14	〃	39	
	15	試験	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	母性看護学〔2〕母性看護学各論（医学書院）
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	テキストを持参すること

授業科目	母性看護技術	単位／時間	１／１５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	塩崎 直子・畠中 ゆかり
授業の目的・テーマ	妊娠・分娩・産褥、新生児各期の看護に必要な看護技術を修得できる。		
授業の到達目標	妊娠・分娩・産褥、新生児各期の看護に必要な看護技術を修得する。		

授業の計画				
	1	胎児心拍数モニタリング　　（塩﨑）	26	
	2	胎児心拍数モニタリング	27	
	3	看護過程　事例	28	
	4	看護過程　事例	29	
	5	看護過程　事例	30	
	6	妊婦の腹囲、子宮底長測定、レオポルド触診法	31	
	7	退行性変化・進行性変化の観察	32	
	8	退行性変化・進行性変化の観察	33	
	9	新生児の観察と看護　　（畠中）	34	
	10	新生児の観察と看護	35	
	11	新生児の観察と看護	36	
	12	沐浴演習	37	
	13	沐浴演習	38	
	14	沐浴演習	39	
	15	試験	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	

授業の方法	講義　演習
テキスト/参考文献	母性看護学〔2〕母性看護学各論　（医学書院）、　母性看護技術　（メディカ出版）ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程（医歯薬出版）
評価の方法や基準	筆記試験演習等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、母性看護技術に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	

授業科目	母性看護学実習	単位／時間	２／９０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	畠中 ゆかり　他
授業の目的・テーマ	妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族を理解し、対象に応じたウェルネスに向けた看護を実践する基礎的能力を習得する		
授業の到達目標	下記に記載		

授業の計画				
	1	実習目標 １．妊娠・分娩・産褥期および新生児期の生理的変化と、心理的・社会的特徴を理解する ２．母子とその家族のウェルネスに向けた看護援助を理解する。 ３．母子とその家族の個別性を捉えた看護過程を展開できる。 ４．継続看護の必要性を理解し、看護者間および母性を取り巻く多職種との連携について知る。 ５．生命の誕生、母子相互作用を通して、生命の神秘、生命の尊厳、母性観、父性観について深めることができる。 内容、方法、評価については、実習要項を別途配布する。		
	5			
	10			
	15			
	20			
	25			
	30			
	35			
	40			
	45			
	50			
	55			
	60			
	65			
	70			
	75			
	80			
	85			
	90			

授業の方法	高知赤十字病院、高知大学医学部附属病院、高知医療センター、国立病院機構高知病院にて臨地実習
テキスト/参考文献	
評価の方法や基準	実習内容、提出物、出席等を総合的に評価する。
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、母性看護学に関する基本的知識を実践の場を通して指導を行う。
履修上の注意事項	

授業科目	小児看護学実習	単位／時間	２／９０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	岩城 ゆかり　他
授業の目的・テーマ	小児の特徴を理解し、各健康レベルにある小児とその家族に看護が実践できる。		
授業の到達目標	下記に記載		

授業の計画				
	1	実習目標 １）小児各期の成長発達を理解し、適切な成長発達への援助ができる。 ２）疾病・障害をもつ小児と家族を理解し適切な看護ができる。 ３）小児看護における倫理について理解し倫理的配慮ができる。 ４）小児看護の役割を理解できる。 ５）小児に関する社会資源の活用について理解できる。 内容、方法、評価については、実習要項を別途配布する。		
	5			
	10			
	15			
	20			
	25			
	30			
	35			
	40			
	45			
	50			
	55			
	60			
	65			
	70			
	75			
	80			
	85			
	90			

授業の方法	高知赤十字病院　国立病院機構高知病院　高知医療センター　土佐希望の家　保育園にて臨地実習
テキスト/参考文献	
評価の方法や基準	実習内容、提出物、出席等を総合的に評価する。
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、小児看護学に関する基本的知識を実践の場を通して指導を行う
履修上の注意事項	

授業科目	在宅看護援助論	単位／時間	２／４５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	竹内 初衣・井上 加奈子・山本 詩帆 安岡 しずか・山本 恵理
授業の目的・テーマ	在宅療養者における生活支援の方法と疾病管理について理解し、在宅での看護展開ができる。		
授業の到達目標	在宅での看護展開を修得する。		

授業の計画				
	1	地域・在宅看護実践の場と連携（第3/5章）	26	在宅での事例展開
	2	地域・在宅における時期別の看護	27	看護計画・立案・修正
	3	暮らしを支える看護技術（第2章）	28	グループワーク
	4	地域・在宅看護における安全を守る看護	29	〃
	5	地域における暮らしを支える看護実践	30	〃
	6	活動に関する地域・在宅看護技術	31	〃
	7	〃	32	訪問看護ロールプレイ
	8	食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術	33	発表・意見交換・評価
	9	〃	34	〃
	10	排泄に関する地域・在宅看護技術	35	〃
	11	〃	36	訪問時のマナー・留意点
	12	清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術	37	在宅酸素・在宅人工呼吸療法（外部講師）
	13	苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術	38	〃
	14	呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術	39	介護支援専員の役割（外部講師）
	15	〃	40	〃
	16	〃	41	ケアプランの実際（外部講師）
	17	創傷管理に関する地域・在宅看護技術	42	〃
	18	小児ケア	43	地域包括支援センターの役割（外部講師）
	19	〃	44	〃
	20	試験	45	試験
	21	在宅での看護過程	46	
	22	〃 情報収集とアセスメント	47	
	23	〃	48	
	24	〃 ジェノグラム・エコマップ	49	
	25	〃	50	

授業の方法	
テキスト/参考文献	在宅看護論　（医学書院）／在宅療養を支えるケア（メディカ出版）
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	〇
実務経験	医療･在宅現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、在宅看護に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	総合評価について事前に理解しておくこと。

授業科目	在宅看護技術	単位／時間	１／１５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	竹澤 睦子
授業の目的・テーマ	在宅で療養する人の日常生活の援助方法を理解し、在宅看護に必要な技術を習得する。		
授業の到達目標	在宅看護に係る知識と技術の理解・習得。		

授業の計画				
	1	在宅看護援助の基本	26	
	2	在宅看護の基本技術	27	
	3	在宅看護の基本技術	28	
	4	在宅看護の日常生活援助技術：環境調整	29	
	5	在宅看護の日常生活援助技術：活動・休息	30	
	6	在宅看護の日常生活援助技術：食事・排泄	31	
	7	在宅看護の日常生活援助技術：清潔	32	
	8	在宅看護の日常生活援助技術：演習	33	
	9	在宅看護の日常生活援助技術：演習	34	
	10	在宅看護の日常生活援助技術：演習	35	
	11	在宅看護の日常生活援助技術：演習	36	
	12	体験学習	37	
	13	体験学習	38	
	14	体験学習	39	
	15	試験	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	

授業の方法	講義　グループワーク　演習　体験学習	
テキスト/参考文献	在宅看護論　（医学書院）	
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価	
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する		○
実務経験	医療･在宅現場での看護業務	
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、在宅看護技術に関する基本的知識を講義する	
履修上の注意事項	総合評価について事前に理解しておくこと。	

授業科目	看護技術の実際	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	丁野 美智・森本 紗磨美　他
授業の目的・テーマ	看護の基本技術、診療補助技術を統合し臨床現場で看護実践できる能力を身につける。		
授業の到達目標	１.臨床現場で提供される援助技術（情報収集、アセスメント、ケア）を統合し考えることが出来る。 ２.複雑な状態の患者に対する優先順位を考慮した必要な援助を考え、実施できる能力を養う。		

授業の計画				
	1	状況判断能力をつける： 事例疾患の情報収集、アセスメント (森本先生)	26	看護技術演習
	2		27	
	3		28	
	4		29	疾患看護学習（小児医療的ケアについて）
	5		30	〃　　（講演会参加）
	6			
	7	状況判断能力をつける： フィジカルアセスメント（丁野先生）		
	8			
	9			
	10			
	11	事例患者の看護について考える（山﨑先生）		
	12			
	13	個人ワーク（事例患者の看護過程）		
	14			
	15	グループワーク（看護問題、計画の発表準備）		
	16			
	17			
	18			
	19	事例発表（山﨑先生）		
	20			
	21	看護技術演習		
	22			
	23			
	24			
	25			

授業の方法	講義　演習　グループワーク
テキスト/参考文献	基礎看護技術ＩＩ（医学書院）　看護がみえる①②③（メディックメディカ）
評価の方法や基準	課題レポート、実技試験、グループワーク、授業態度及び筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、看護技術に関する基本的知識と実践に生かすことができるよう講義する
履修上の注意事項	看護技術ノートを事前に作成して臨むこと

授業科目	看護実践の探求	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	宮田 美紀
授業の目的・テーマ	臨床の場における看護実践について深く思考し、実践方法を理解する。		
授業の到達目標	Ⅰ　ケーススタディを仕上げることができる。 Ⅱ　看護研究の一連を学ぶことができる。		

授業の計画				
	1	ケーススタディの進め方（石元）	26	看護研究発表会
	2	〃	27	〃
	3	研究発表の仕方　抄録の作り方（石元）	28	〃
	4	〃	29	〃
	5	ケース・スタディによる看護実践の思考①	30	〃
	6	ケース・スタディによる看護実践の思考②	31	
	7	ケース・スタディによる看護実践の思考③	32	
	8	ケース・スタディによる看護実践の思考④	33	
	9	ケース・スタディによる看護実践の思考⑤	34	
	10	ケース・スタディによる看護実践の思考⑥	35	
	11	ケース・スタディによる看護実践の思考⑦	36	
	12	ケース・スタディによる看護実践の思考⑧	37	
	13	ケース・スタディによる看護実践の思考⑨	38	
	14	ケース・スタディによる看護実践の思考⑩	39	
	15	ケース・スタディによる看護実践の思考⑪	40	
	16	ケース・スタディによる看護実践の思考⑫	41	
	17	ケース・スタディによる看護実践の思考⑬	42	
	18	抄録作成①	43	
	19	抄録作成②	44	
	20	抄録作成③	45	
	21	抄録作成④	46	
	22	発表準備（抄録の印刷・製本・配布）	47	
	23	〃	48	
	24	発表準備（進行方法、原稿つくり）	49	
	25	〃	50	

授業の方法	講義、個人ワーク、グループワーク
テキスト/参考文献	看護学生のためのわかりやすいケース･スタディの進め方（照林社）／看護学生のためのケース･スタディ（メヂカルフレンド社）
評価の方法や基準	ケース・スタディおよび抄録、発表に向けての準備姿勢と授業中の態度によって評価する。
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	看護研究を実践
実務経験の活かし方	看護研究を実践経験を活かし、基礎学者に分かりやすい研究への望み方を講義する。
履修上の注意事項	ケース・スタディの評価は所定の評価表に基づいて評価する。また、出席状況および授業中の態度やワークに取り組む姿勢も評価対象とする。

授業科目	看護管理	単位／時間	１／３０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	小松 ゆり・伊勢田 純子
授業の目的・テーマ	看護管理の概念と実際を理解し、看護専門職としての現状の理解ができる。		
授業の到達目標	看護管理の概念と実際を理解し、看護専門職としての現状の理解と今後のあり方を考えることが出来る。		

授業の計画				
	1	第1章　看護とマネジメント　（小松）	26	医療事故対策　（伊勢田）
	2	A-看護管理学とは	27	転倒･転落、誤薬の防止 患者誤認、誤飲･窒息の予防 情報伝達と共有・管理
	3	B-看護におけるマネジメント	28	
	4	第3章　看護職のキャリアマネジメント	29	インシデントレポート、事故後の対応
	5	A-キャリアとキャリア形成 B-看護職のキャリア形成	30	試験
	6	C-看護専門職としての成長 D-タイムマネジメント	31	
	7	E-ストレスマネジメント	32	
	8	第4章　看護サービスのマネジメント	33	
	9	A-看護サービスのマネジメント（組織として看護サービスをマネジメントする）	34	
	10	B-組織目的達成のマネジメント（組織としての目的を達成するためのマネジメント）	35	
	11	C-看護サービス提供のしくみづくり	36	
	12	D-人材のマネジメント E-施設・設備環境のマネジメント	37	
	13	F-物品のマネジメント G-情報のマネジメント	38	
	14	H-組織におけるリスクマネジメント I-サービスの評価	39	
	15	第5章　マネジメントに必要な知識と技術	40	
	16	A-マネジメントとは　B-組織とマネジメント C-リーダーシップとマネジメント　D-組織の調整	41	
	17	第6章　看護を取り巻く諸制度 A-看護の定義　B-看護職	42	
	18	第4章　国際看護学　（国際看護学）	43	
	19	試験	44	
	20	第2章　看護ケアのマネジメント　（伊勢田）	45	
	21	安全管理	46	
	22	〃	47	
	23	〃	48	
	24	〃	49	
	25	〃	50	

授業の方法	講義　グループワーク
テキスト/参考文献	基礎看護学〔1〕看護学概論（医学書院）、看護の統合と実践〔1〕看護管理（医学書院）、災害看護学・国際看護学（医学書院）
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、看護管理に関する基本的知識と実践に生かすことができるよう講義する
履修上の注意事項	「評価の方法や基準」について、事前に理解しておくこと。

授業科目	災害看護	単位／時間	１／１５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	藤戸 亮・寺尾 浩
授業の目的・テーマ	災害における看護の基礎知識と技術を理解できる。		
授業の到達目標	災害における看護の基礎知識と技術を習得する。		

授業の計画				
	1	第2章　災害看護学　（藤戸）	26	
	2	A-災害看護の歩み	27	
	3	〃	28	
	4	B-災害医療の基礎知識	29	
	5	C-災害看護の基礎知識	30	
	6	D-災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	31	
	7	〃	32	
	8	E-被災者特性に応じた災害看護の展開	33	
	9	〃	34	
	10	〃	35	
	11	第2章　トリアージ　（寺尾）	36	
	12	〃	37	
	13	〃	38	
	14	〃	39	
	15	試験	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	

授業の方法	講義　　グループワーク　演習
テキスト/参考文献	看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学（医学書院）
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、災害看護に関する基本的知識と実践に生かすことができるよう講義する
履修上の注意事項	総合評価についてよく理解しておくこと。

授業科目	在宅看護論実習	単位／時間	２／９０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	下村 美佳子
授業の目的・テーマ	地域で生活している対象とその家族を理解し、在宅看護に必要な知識・技術・態度を習得する。		
授業の到達目標	下記に記載		

授業の計画			
	1	実習目標 １）あらゆる健康段階にある対象と家族に対して在宅看護の役割と機能が理解できる。 ２）在宅看護の対象の特徴を理解し、在宅で生活している人々が、病気や障害に応じて充実した生活がおくれるよう看護の方法を理解し援助できる。 ３）在宅看護に必要な保健・医療・福祉制度を総合的に理解し、社会資源の活用方法と調整について理解する。 ４）在宅療養者と家族との関わりを通じて、自己の行動を振り返り、看護師としての基本的姿勢と態度を身につける。 内容、方法、評価については、実習要項を別途配布する。		左記目標に向けて、９０時間、各施設で実習を行う。
	5		
	10		
	15		
	20		
	25		
	30		
	35		
	40		
	45		
	50		
	55		
	60		
	65		
	70		
	75		
	80		
	85		
	90		

授業の方法	訪問看護ステーション・介護老人保健施設・介護老人福祉施設・居宅介護支援事業所・地域包括支援センター・保健所にて臨地実習
テキスト/参考文献	
評価の方法や基準	実習内容、提出物、出席等を総合的に評価する。
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に〇を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療／在宅現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、在宅看護に関する基本的知識を実践の場を通して指導を行う
履修上の注意事項	実習の意義をよく理解しておくこと。

授業科目	統合実習	単位／時間	２／９０時間
開講学科等	看護学科	担当教員	内川 佳世　他
授業の目的・テーマ	専門職業人としての責任と役割を理解し、臨床実践に即した看護が実践できる。		
授業の到達目標	下記に記載		

授業の計画				
	1	実習目標 １）看護管理の実際を知ることにより保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める。 ２）夜間の患者の状況を知ることにより患者を総合的に理解できる。 ３）複数患者の看護援助について、優先順位と時間管理の必要性が理解できる。 ４）既習の知識、技術、態度を統合し、看護実践力を高めることができる。 ５）看護観を深めると共に将来の看護師としての自己の課題を明確にできる。 内容、方法、評価については、実習要項を別途配布する。		左記目標に向けて、９０時間、各施設で実習を行う。
	5			
	10			
	15			
	20			
	25			
	30			
	35			
	40			
	45			
	50			
	55			
	60			
	65			
	70			
	75			
	80			
	85			
	90			

授業の方法	高知赤十字病院、近森病院にて臨地実習
テキスト/参考文献	
評価の方法や基準	実習内容、提出物、出席等を総合的に評価する。
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、統合された看護に関する基本的知識を実践の場を通して指導を行う
履修上の注意事項	実習の意義をよく理解しておくこと。